

包装資材として段ボールが登場したのは1871年ニューヨークで、ボトル等を包んだことが最初ですが、すでに英国ではシルクハットの内側の汗を吸い取るため1856年に特許化されました。段ボールの故郷、英国は北イングラントを訪ねました。

2001年創業、先進国では成熟産業にも関わらず急成長をしている段ボール会社。その成功の秘密を探りました。

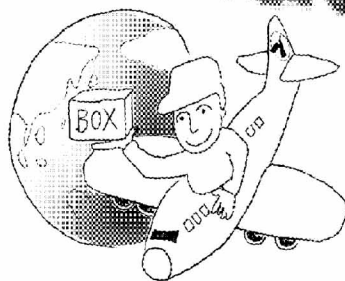
「先輩先業と異なることを」と、手がけた製品は、白ライナを貼合したE段枚葉シートにスクリーン印刷機で

赤や緑など単色をベタ印刷した箱で「写真へと発展します。」

「ユーザーの商品が茶色ではないことで差別化に成功。「段ボール印刷業」という分野は売場全体へ、新しい」という経営者の思いは売場全体へ、

付加価値化で新規参入

世界の飛脚



第24回

野を確立し、枚葉オフセット機も投入、プレ

「先輩先業と異なることを」と、手がけた製品は、白ライナを貼合したE段枚葉シートにスクリーン印刷機で



その分人材はクリエーターを揃え、創業15年にして年商170万ポンド(約26億円)社員100人の企業となりました。「今まで出来なかったことが出来る時代」と新たなチャレンジに積極的です。次回も同社についてレポートします。

質問・問合せは有効社シトー貿易丸03-3949-9930へ。次回掲載予定は8月7日号。